

漫画『うちの3姉妹』に描かれる子どもの姿

—「子育て支援」の視点からの考察—

Study of the Comic Book “Uchi no San-shimai”
with a focus on Child-nurturing Support

平 林 久 枝, 山 内 淳 子

Hisae HIRABAYASHI and Junko YAMAUCHI

概 要

本研究が注目する漫画『うちの3姉妹』は、漫画家松本ぶりっつの作品で、自身が育てる3姉妹の日常を面白おかしく描いたものである。2006年4月に第1巻が発行、2010年9月の時点で第13巻まで発行されている。販売数はシリーズ累計で250万部を突破している人気漫画である。子育て中の親にとっては、「うちの子も同じ」と共感しながら、3姉妹の言動を共に笑い、ストレスを解消し、子育ての楽しさや喜びを改めて実感できる場となっている。その意味では、漫画『うちの3姉妹』は、ある意味とても有効な「子育て支援の場」と言える。以上をふまえて、本研究では、子育て中の親達の共感をよび、彼らに子育ての楽しさや喜びさえ実感させている、松本ぶりっつが描く子どもの姿とはどのようなものなのか探っていく。方法としては、漫画『うちの3姉妹』を一次資料として、そこに登場する3姉妹の「おかしい言動」(=ボケ)と、それを客観的かつ冷静に評価する「母の心の声」(=ツッコミ)を抽出、分類していく。

I. 研究の目的

本研究が注目する『うちの3姉妹』は、松本ぶりっつ作の人気漫画である。

漫画家松本ぶりっつは、幼稚園教諭の経験ももつ、3姉妹の母である。2005年、自身が育てる3姉妹、長女フー、次女スー、三女チーの日常を面白おかしく漫画で伝えるブログ「うちの3姉妹」を開設したところ、アクセス数でたちまち育児部門第1位となった¹⁾。2006年4月には、ブログをもとにした漫画『うちの3姉妹』第1巻が発行された。2010年9月時点で、第13巻まで発行されており、販売数は、シリーズ累計で250万部を突破している²⁾。ブログへのアクセス数は、2010年に

は2億件を超え³⁾、2010年9月時点でも育児部門第1位を維持している⁴⁾。2008年4月からはテレビアニメ「うちの3姉妹」がスタートするまでの人気を得ている。

松本ぶりっつは漫画『うちの3姉妹』第1巻のあとがきで次のように書いている⁵⁾。

「育児日記」がつけたかったわけでもなく「育児法の紹介」をしたいわけでもない。ただうちの娘たちの言動を一緒に笑い飛ばしてほしい、という気持ちで始めたブログです。…うちの3姉妹の成長を見守りながら、この子たちの日常を一緒に笑い飛ばしていただけるとうれしいな、と思います。

ここには、子どもの言動にむきになったり、悩んだり、落ち込んだりせず、「一緒に笑い飛ばしてしましましょう」という、自分と同じく子育てを頑張っている世の多くの親達に向けた、松本ぶりつつからのメッセージが込められていると言える。

書籍等の通信販売サイト「アマゾン」のホームページ上には、漫画『うちの3姉妹』に対する次のようなカスタマーレビュー（読者の書評）が掲載されている⁶⁾。

「そうそう！ そうなの！」 「いや～同じだわ」と共感できることばかりで育児のつらさから一時解放されるような気分になります。

読んでみると、“子育ては大変だけど、楽しいよね”ってぶりつつさんの声が聞こえてくるようです。…3姉妹とぶりつつさん夫婦の素敵な日常を通して、子育てで悩んでいるお母さん方は、ストレス解消のヒントが見つかると思います

ちょっとしたときに、読むと心が晴れるというか、…本当に子育てって楽しい。家族っていいな。姉妹っていいな。と思わせてくれる1冊です

自分達の子供が愛おしく見えてくるかもしれません。…どのようにアンテナをはり、どういう風に子供たちを見れば良いのかというヒントになるかもしれません。

「読んでみると、“子育ては大変だけど、楽しいよね”ってぶりつつさんの声が聞こえてくるようです」という言葉に象徴的にあらわれているように、これらの書評には、「うちの子も同じ」と共感しながら、3姉妹の言動を共に笑い、癒され、子育ての楽しさや喜びを改めて実感できている、子育て中の親達の姿がうかがわれる。

子育て中の親達に、リフレッシュできる場を提

供すること、ストレスを軽減してもらうこと、肩の力を抜き、明るい気持ちで子育てを楽しんでもらうこと、これらは、今日の子育て支援の中心的課題である。そうした課題に向け、子育てサークル支援、子育て相談など、様々な取組がなされているが、上の書評からは、『うちの3姉妹』の漫画やブログもまた、ある意味とても有効な「子育て支援の場」となっていることがわかる。

以上をふまえ、本研究では、これほどまでに子育て中の親達の共感をよび、彼らを癒し、子育ての楽しさや喜びさえ実感させている、松本ぶりつつが描く子どもの姿とはどのようなものなのか探っていく。漫画『うちの3姉妹』は、3姉妹の「おかしな言動」（＝ボケ）に対して、それを客観的かつ冷静に評価する「母の心の声」（＝ツッコミ）という型で展開されている。以下、本研究では、この「ボケ」「ツッコミ」に注目しながら、それらを抽出し、分類することで、漫画『うちの3姉妹』の中で松本ぶりつつが「ツッコミ」をいれ、笑い飛ばそうとする子どもたちの姿を明らかにしていく。

Ⅱ. 研究の方法

松本ぶりつつ作の漫画『うちの3姉妹』（第1巻2006年～第12巻2010年、主婦の友社）を一次資料として、そこに登場する3姉妹の「おかしな言動」（＝ボケ）と、それを客観的かつ冷静に評価する「母の心の声」（＝ツッコミ）を抽出、分類した。

Ⅲ. 研究の結果と考察

漫画『うちの3姉妹』第1巻～第12巻から抽出された3姉妹の「おかしな言動」（＝ボケ）と「母の心の声」（＝ツッコミ）の場面は518場面であった。抽出された「おかしな言動」（＝ボケ）を内容ごと分類した結果は、表1の通りである。表2は、表1の各カテゴリーに代表的な「おかしな言動」（＝ボケ）、「母の心の声」（＝ツッコミ）の例を示したものである。

表1 3姉妹の「おかしい言動」(=ボケ)の抽出・分類結果

カテゴリー	抽出数	カテゴリー	抽出数
おかしい言葉話す	75	聞き間違いをする	2
ごっこの世界に生きている	56	観察力が無駄に鋭い・母の行動を見逃さない	2
思いもよらない発想・発言で母を驚かす	51	生意気なことを言う	2
親の期待・推測を裏切る	39	母の嫌な予感を裏切らない	2
解釈が間違っている	30	大人びたスタイルで無言の抵抗をする	2
何にもおかまいなく、自由気ままにふるまう	27	途中であきらめる	2
父や母、姉のまねをしようとするが、うまくいかない	25	思わぬ事故にあう	2
頭の中がメルヘン	17	片方に集中すると、もう片方を失敗する	1
思いもよらない行動で母を驚かす	14	ありえないことを心配する	1
勝手に命名する	12	一生懸命話すが無駄に話が長い	1
おかまいなしに思ったことをストレートに言う	10	言ったことをすぐ忘れる	1
怯える	9	自分が言った言葉に自分で笑う	1
自分の欲求を貫こうとする強靭さをもつ	8	失敗から慎重になりすぎる	1
やり方が間違っている	8	周囲の怒りに鈍感	1
真剣だが的はずししている	8	勝負に厳しい	1
ありえないファッションを好む	7	自分の過ちを人事のように言う	1
母の企み・予想を超える	7	ずるをする	1
妹に教えようとするが、その内容が間違っている	7	正解が意味不明な問題を出す	1
食べることへの執念がすさまじい	7	絶対ありえないことを願う	1
自信たっぷりに歌を間違えて覚えている	5	立ち直りが早い	1
人の話を聞いていない	5	頼まれてないことをしながら、大変そうにする	1
同じ失敗を繰り返す	4	怖いときには父を利用する	1
気に入るとそればかり永遠に続けようとする	4	妹がさらに下の妹をからかう	1
態度が大きく謙虚さに欠ける	4	妹に弱い	1
無茶をして痛い目にあう	4	幼い妹に誤った期待をする	1
自分のルールにこだわる・お決まりの儀式がある	4	母の愛を無駄にする	1
読み間違える	4	大人の冗談を真に受ける	1
基準がおかしい	4	菩薩のよう	1
母を反省させる言葉を使う	3	ポジティブ	1
大事なところで適当	3	まねしてほしくないことをまねする	1
無理難題を言う	3	勇姿を見せる	1
欲求をかなえようと、演技する	3	着替え途中でおかしい姿になる	1
条件反射する	3	大きさに言う	1
姉や妹に強靭	2	「いいよ」と言っても許していない	1
妹の意味不明な言葉を読解する能力をもっている	2	できていないのに「できた」と言う	1
正論を述べるが、述べるタイミングが間違っている	2		

表2 3姉妹の「おかしな言動」(＝ボケ)と「母の心の声」(＝ツッコミ)の例

カテゴリー (抽出数)	ボケ・ツッコミ例			
	姉妹	状況	ボケ	ツッコミ
おかしな言葉を話す (75)	長女 7歳	おぼろ月がとってもキレイな夜、長女が「おぼろ月」という名前を思い出そうとして言ったのが、	みずいぼ	なぜ!!
ごっこの世界に生きている (56)	次女 3歳	次女は男の子役が好き。長女は、次女がお兄ちゃん役をやっているときはたいいピンチを迎えてお兄ちゃんに助けを求めるが、	長女「お兄ちゃんたすけて」次女「死んだぜ」	お兄ちゃんはあきらめが早い。
思いもよらない発想・発言で母を驚かす (51)	長女 6歳	長女にその日の給食の献立を聞いてみたら、	「牛乳と～ご飯と～魚と～おぼろん！」	ズコ 食べられないから。
親の期待・推測を裏切る (39)	三女 4歳	幼稚園から帰ってきて、「お母さんすっごくおいしかった!!」とカバンからお弁当セットを出す三女。こんなうれしいひと言をもらえるなんて、これぞ母業のだいたいご味かな…なんて思いながら、お弁当の中身でどれが一番おいしかったか聞いてみたら、	「みかん」	和歌山の農家の人に言えデザート強えよ。はんばねえよ。
解釈が間違っている (30)	長女 5歳	運動会のリレーの練習中。両手をまっすぐおろしたまま走っている。もうすぐ運動会だということにこれではいかん! と思い、思わず「フー! もっと手ふって!!」と声をかけると、	バイバイのように手を振る	ズコ 愛想ふりまいてどうするとですか-----!!
何にもおかまいなく、自由気ままにふるまう (27)	次女 5歳	バレエの発表会。恥ずかしがりやの次女が意外にも、家族総出で見守る中すばらしい踊りを披露しているなど思っていたら、	ほじ(はなくそをほじる)	!!ほじった 一瞬でしたがまちがいがなく。おおぜいのお客さんの前でもそれができるおまえはすごい。
父や母、姉のまねをしようとするが、うまくいかない (25)	次女 4歳	エイプリルフールの日、父や長女のまねをして、次女も父にウソをつきにいった。しかし、父にウソを予告してしまったうえ、ついたウソが、	「スーここかゆい」	ぬるい。 4歳の次女にはウソをつくのつかれるのもむずかしいみたいだ。
頭の中がメルヘン (17)	長女 5歳	「知らない人についていかないよ」と話すと、「あと、クマにも」と答える長女。しょうがないので、悪い人をクマにたとえて、もしクマがきたら大きい声で逃げるように長女に伝えると、	「クマははちみつが好きだからなめている間に逃げればいんだよーっ」	「そんな平和なクマがいるかっ!!!」 ここは100エーカーの森か!!
思いもよらない行動で母を驚かす (14)	長女 7歳	長女が突然くじを作らなきゃと言っすごくたくさんのメモ帳に一生懸命何かを書き始めた。母は「紙がもったいないな～」と思いつつ、どなくじを作っているのかのぞいてみたら、	紙に「くじ」と書いている	まさにくじ。全部くじ。どんだけくじ? ああ、紙が本当にもったいない。
勝手に命名する (12)	長女 5歳	長女はハンカチで作ったブラジャーを胸に着けて、	「みてーおっぱいつけ!!」	ぶっ、なにそのネーミング、おっぱいつけてあんた。まあすこぶるわかりやすい名前ではあるが。
おかまいなしに思ったことをストレートに言う (10)	次女 3歳	晩御飯がシチューだったとき、次女はニンジンやらじゃがいもをごろごろ皿に残したまま、	「ねー、ジャマなんだけど、コレ。」	具をじゃまって、あなたストレートすぎますよ。
怯える (9)	長女 7歳	長女の自動改札の通り方。1.切符を入れる、2.タイミングを見はからって…	3.激走!!!	「きっぷきっぷ!!」 どんだけビビリだ。
自分の欲求を貫こうとする強靭さをもつ (8)	次女 3歳	次女は眠くなると人の耳たぶをさわるというありがちな癖をもつ。無意識に母の耳たぶをさわってきて明らかに眠いくせに昼寝が嫌いで寝ようとしなない。「じゃあもう耳さわんないでよ。くすぐったいから」と言い、静かになったなどと思って見ると、	三女の耳たぶをさわっていた	オイ 利用されている三女

やり方が間違っている(8)	次女 3歳	晩御飯の後、みかんを食べようとしていた次女。なかなか皮がむけなかったとき、	「あかないな～」机にみかんを当てて「こんこん」	「ゆでたまごか!!」
真剣だが的はずれしている(8)	三女 2歳	熱い食べ物にひるむようになった三女。どうすれば熱い思いをしなくてすむのか!?…と三女なりに(たぶん)いろいろ知恵をしばった結果が、	めかくし	ぶ…ぶ 三女「あぢ!!」 あたりまえっすよ。
ありえないファッションを好む(7)	長女 6歳	冬のある日、長女が「今日これででかけたい～いい?」と言うので見てみると、	妖精の服(昔買ったティンカーベルの衣装)を着ている	おたわむれを。 いろんな意味で寒いです。
母の企み・予想を超える(7)	三女 1歳	少しでも長く妖怪まんま小僧をだませようと、いもけんぴを与えた。ガリガリとかじるのに時間がかかるだろうと思っていたが、渡しても渡してもすぐにおかわりを求めてくる。こんなチビのくせにいもけんぴを食うとは…と思っていたら、	チューチューなめたら、ほいっと捨てていた。床はなめて捨てられたいもけんぴだらけ。	「ちゃんと食え!!」 食ってなかった。かたすぎたか…。
妹に教えようとするが、その内容が間違っている(7)	長女 7歳	三女が自分はお父さんの「むしゅこ」と言うので、みんな大笑い。長女が三女の間違いを訂正しようと言ったせりふが、	「チーちゃんは女なんだからめすこ」	ガターン(父いすごと倒れる) 気持ちわからんでもないがOrz
食べることへの執念がすぎまじい(7)	三女 1歳	食後のみかんをあっというまに食べてしまった三女。「だーだーばぶ」という三女のもっとくれコールを母が無視していたら、	みかんの皮をフォークで刺し口に運ぶ	「おい!!!」 あてつけー!?フォークを握りしめたその姿は、まさに、ベビーサタン!!
自信たっぷりに歌を間違えて覚えている(5)	次女 3歳	次女は「春が来た」の歌が大好き。その歌詞を聴いてみると、	「はーるがきた はーるがきた どーこーにきた ～ やっぱり きた さっぱり きた も～し～ も～きた～」	春は本当にきたのか?
人の話を聞いていない(5)	長女 7歳	「これがマグロの稚魚です」とさんざんマグロだって言ってるテレビを見ながら、	「あー あれイルカ?」	ズル
同じ失敗を繰り返す(4)	三女 3歳	三女があわててトイレにかけこんでいった。どうやらぎりぎりの様子。大丈夫かな…と見ていたら、	「ばんっ」あわててトイレのフタをあける! 「ばんっ」勢いよすぎてはね返ってしまう! (しばらく繰り返した後)「あかない」	落ち着けや! ああ、やっぱり3歳児…。
気に入るとそればかり永遠に続けようとする(4)	三女 1歳	ひな祭りの歌を三女に聞かせてみると、	母「あかりをつけましょ…」 三女「っかい」 母「え…あ、もっかい?」 三女「コクコク」	なぜか「あかりをつけましょほ」しか歌わせてもらえなかったとです!!
態度が大きく謙虚さに欠ける(4)	次女 3歳	外遊びでどろんこになって帰ってきて、汚いのでご飯の前にお風呂ということになり、「ばっちいからそのままお風呂ね!!」と言うと、	次女 食卓に座り、「ねえ、ごはんまだ?」 母 ズコ「お風呂入って言っ	えっ。なに、その「一歩ひいてやるか」みたいな態度。

			たでしょーっ」 次女「スーおなかへったんだけど。ま、いいか。」	
無茶なことをして痛い目にあう(4)	三女 1歳	パジャマズボンを「んきない(できない)」と言いながら自分で履き、片方のズボンに両足を入れたままBダッシュ!!(走る)して、	おでこから転ぶ	あたー かなりのご立腹。そして「んふま いっ!! (おしまい)」と言ってパジャマズボンを投げました。 パジャマは悪くないんですけど…
自分のルールにこだわる・お決まりの儀式がある(4)	三女 2歳	朝からぎんぎん泣いている三女に大好きなパンで機嫌を直してもらおうと食卓に座らせたが何かがお気に召さない様子。結局何が気に入らなかったかと言うと、	「こうだの!!!!」 コップの取っ手の向きを変える	ズコ コップの向き 三女ー! かんべん!! 寝ぼけぎみの2歳児っておそろしいです。
読み間違える(4)	長女 6歳	漢字が読めたら「1年生漢字表」にシールを貼ることにしている。長女が「山のほり」っていうのを読もうとして、	長女「こいのほり」 母 ズコ 長女「よし、シール」べた	「はるな!!」
基準がおかしい(4)	三女 4歳	家族でおでかけしていたとき、三女だけ蚊にくわれちゃったので、母が「チーだけくわれちゃったね〜」って言ったら、	「じゃあスーとお母さんとお父さんとフーちゃんが…まかま(なかま)はずれ」ビシッと指をさす	父、母、長女：なにいっ どんだけ世界の中心なんだよおまえは。
母に反省させる言葉を使う(3)	長女 7歳	長女が漫画らしきものを描いて、「フーちゃんも漫画家になる!」とはりきっていましたが、心配なこともあるようなので聞いてみたら、	「マンガ家はいそがしいよね〜おせんたくものもたためないくらい」	!? だいじょうぶ。たぶんほかの作家さんは洗濯物たんでっから。
大事なところで適当(3)	次女 4歳	「にーしーろーやー」次女がこんな数え方をしていたので父がほめていたら、	「にーしーろーや、だから9こかな」	「いや、そこ大事!!!」 自由人は適当だった。
無理難題を言う(3)	次女 5歳	三女は弁当の中身は「ごはんときょうざがいい」と言う。三女のリクエストを聞いて笑っていた次女にも同じ質問を試みたら、	「まぐろ」	え〜〜〜〜っ…… それもキツイ。むしろ危険。
欲求をかなえようと、演技する(3)	次女 3歳	次女に嫌いな食べ物もちゃんと食べなさいと言うと、	「もうなんかねむ〜〜い」	その手はくうかよ!! 薄目になってもダメですよ。
条件反射する(3)	三女 1歳	「ハイ」という返事をかなり(無理やり)言わされている中、自然と覚えてしまった三女。長女がおバカなことをしたのでお説教をしていたら、	母「あーでこーでもうダメだよ、わかった?!」 三女「あい」	母と長女、返事をした三女を見る 無意識? もう、お説教の最中だっというのに笑えてしまってる。
姉や母に強靭(2)	三女 4歳	長女と言い争っていた三女。長女に向かって「バカ」と言ったので、母が登場して「こらっ!!! 誰!!!? 悪いことを言ってるのはーっ」と言ったら、	三女「(長女をさして)この人でーす」	ゴッ はちゃめちゃすぎるうー。4歳やっかいたよう。よくわかんないよう。
妹の意味不明な言葉を読解する能力をもっている(2)	長女 6歳 次女 3歳	朝、みんなでご飯を食べていたとき、いきなり三女が拳をつきあげて「シャーカーじゅ!!!」と叫んだ!!すると子ども達が、	「[[「じゃんけんボーーン」]]」	……!!!? ……あ『さいしょはグー』か…… すっげー…おまいらすっげーよ…長女と次女をちょっと尊敬した瞬間でした。
正論を述べるが、述べるタイミングが間違っ	次女 3歳	くまのぬいぐるみを貸せと騒ぎだす次女に、長女が「ハイハイもーわかったよ!」と言ってぬいぐるみを貸してくれて、お姉ちゃんさすがと感心していると、次女が長女に、	「ハイ」は1回	ズコ

			よれで、えーん ってゆって一 チーちゃんが ないでーしよ れで～ないたの	
言ったことを すぐ忘れる(1)	次女 3歳	なんとなくくつろいでいるときに次女が突然 『じゃあ「た」のつくものはなーんだ』父 が「えーと…たいこ!」と答えたら、	「ぶっぶ～せー かいほ!!うーん とね えーとね えーと さっ き何言ったっ け?」	おい…(汗) 次女のクイズに正解はない。
自分が言った 言葉に自分で 笑う(1)	三女 2歳	母が布団に入り、なんとなくうとうとし始め たとき、となりに寝ていた三女が突然… 「ま」をとなえた!!目を覚ました三女が母を 見て、	「チーちゃん ま、だって おーしろい(お もしろい)」	自分でウケてた。ぷぷっ
失敗から慎重 になりすぎる(1)	長女 6歳	長女が運動会の50m走でいつになく真剣な やる気モードだったので期待していたら、見 事にフライング、気を取り直してスタートの ピストルが鳴ったら、	真剣な顔で走ら ずに立っている	走れよ!!!
周囲の怒りに 鈍感(1)	長女 5歳	お友達のHちゃんがゲームをしていたとき に長女が「ねえ、それハム太郎のしかない の?」と聞き続ける。Hちゃんはずっと無視 し続け、ついに「うるっさいなーもう!!勝手 にしろ!!」といきなりキレる。長女はびっく りしてショックを受けただろうと心配して いると、	「ねえ それハ ム太郎のしか ないの?」	うわーーーーこいつ聞こえてねえ。 つーか、空気読めよ。なんかもう、あまりの マヌケさに母はあぜん。
勝負に厳しい(1)	長女 6歳	長女と次女がトランプで「神経衰弱」をして 遊んでいたときに、カルタだと思った三女が 乱入し、「K」カードを取っていた。そんな 三女を長女は受け入れ、なんと三女も姉の言 うことに従っていた。三女の番が回ってきて 「8」のカードを引いたため次女が「8」が ある場所を三女に教えたら、	長女「だめじゃ んおしえちゃ」	き…キビシーーっ!!!
自分の過ちを 人事のように 言う(1)	三女 2歳	テーブルに自分で牛乳をこぼしたくせに、そ れを見つけて母に教えてくれた。しばらく三 女を見ていると、	「だれがやった んだろお…チー ちゃん(←自分) かな」	コナンもびっくりなみごとな推理でした。
ずるをする(1)	次女 5歳	次女と三女が魚釣りゲームで遊んでいたら、 なぜか三女がものすごく上手で、次女はな かなか釣れない。残りが1個になり焦った次女 はめいっぱいの笑顔で何をするかと思っ たら、	魚にじぶんのさ おをくつつける	ズルかよ! しかし予想外に三女にほめられて軽くへこむ 次女だった。練習あるのみだがんばれ、次 女。
正解が意味 不明な問題 を出す(1)	次女 3歳	晩御飯の時間に次女の唐突なクイズが始ま った。「ごはんはごはんでもばれられない(食 べられない)ごはんはなーんだ せーかい はっ!!」と、考える余地なし。正解は何かと いうと、	「まめ!!」	…さすがの長女も絶句してしまうような答え でした。どこにつっこめばいいかわからな かったので、我が家では「まめはたべられ ないごはん」に決定しました。
絶対ありえ ないことを 願う(1)	長女 5歳	ある日	は あ…「フー ちゃんいつに なったらうさぎ 年になれるのか なー」	生まれかわったらじゃねーの 悪いけど限りなく不可能ですよ。
立ち直りが 早い(1)	三女 1歳	迎えに来た母に寄り付きもせずにはあばに べったりな三女。実母が三女が泣かないよう にこっそり帰る作戦を立てたようだが、作戦 は失敗し三女号泣。しかし、泣き始めてから 1分後くらいの三女の姿を見ると、	「せっせせ～よ りよりよりお～ た～の～たった !!(せっせせー のよいよいよ い。お寺のおし	唾然 歌ってやがる!!それはもうあつという 間の立ち直りです。演技しているのかと思わ れるほどの。

			ようさんがかぼ ちの種をまき ました。))」	
頼まれてないことをしながら、大変そうにする(1)	長女 5歳	風呂にタイルで貼れるパズルみたいなものがある、長女がそれを使ってはりきって壁磨きをしていた。そのうちに「疲れた」と言い出し、	「もう、どーしてフーちゃんばかりいつも大変なんだろう」「はあ、はあ、はあ」	いや、頼んでねーし だいいち、それでは壁はキレイになりませんよ。
怖いときには父を利用する(1)	三女 2歳	サファリパークで羊にエサをあげていたら、次女と三女が羊に手をかまれてしまいご立腹。三女は自分でエサをあげるのが嫌になってしまい父の手の平にエサを置くと、	父の腕を引っぱり羊に食べさせようとする	父「自分でやりなよ」 父を利用してました。
妹がさらに下の妹をからかう(1)	次女 4歳	三女がトイレのドアの前で一生懸命バジャマのズボンをはき2本の足が通って立ち上がろうとしたら、次女がドアを開けてしまいぶつかってしまった。次女はすかさず三女にあやまったが「スーどめんねはっ?!!!」と三女から言われた次女は、	「どめん どめんね」	ぶっ 完べきにバカにしていた。
妹に弱い(1)	次女 5歳	声の大きい次女の放送にイラだったのか三女が「うーしゃいっ!!」とキレながら注意したら、	次女「ご迷惑をおかけしました 毎度ありがとうございます ございますホース(放送)おわります ぶーんぶーんぶーん」	ぶくく…… そしてホース終了。三女に威嚇されて声のトーンを落としているところが笑えました。
幼い妹に誤った期待をする(1)	次女 4歳	次女は「おしっこしたっけ?」と突然質問をする、母に「知らないよ、そんなこと」と言われた。次女は三女(2歳)に同じ質問を試してみたが、	三女 次女を無視して歩き始める 次女「誰も聞いてないし」	ぶっ 当然無回答。どうやら次女は三女と本気で会話が出来ると思っているようだ。
母の愛を無駄にする(1)	三女 2歳	夜中に目を覚ますと子ども達全員ふとんがかかかっていない。母は長女にふとんを投げてかけ、次女は父を一瞬起こしてふとんの中に入れる。三女はいつも母のとなりで寝ているのでふとんをかけたなら、	足でふとんを持ち上げてから蹴る	汗、汗 母の愛返品。
大人の冗談を真に受ける(1)	次女 6歳	「ご飯を食べると血がおいしくなる」という父の実母の冗談を真剣に受け止めている次女に母が「おやつにぶどう食べた時点でとっくにおいしくなってるんじゃない?」って言ったなら、	「じゃあスーは今…スペシャルなスーだ!!」	汗 …とあせていた(笑) 蚊がよってこないといいね。
菩薩のよう(1)	次女 1歳	極悪人長女を育てている真っ最中だった母にとって、1歳の頃の次女は、菩薩でした。お友達におもちゃをぶんどられたりしても、	ニコニコしてお友達を見る	びかー!!は、菩薩の微笑み,..。怒りもしないし、泣きもしない。いいのか!おまいはそれでいいのか!
ポジティブ(1)	長女 5歳	長女は「ズームイン!!SUPER」の「今日の占い」でその日の自分のラッキーカラーがベージュだと知ると、母にベージュは何色が聞いた。「肌色のことかな」と言うと、	「肌色?!やったーっ」「だってフーちゃん腕が肌色だもん!!よかったー」	腕が肌色なのはお前だけではない。そして肌色なのは腕だけではない。でも、今日は自分のラッキーカラーを身につけている(?)と、喜んでいました。朝から幸せな子ですね。
まねしてほしくないことをまねする(1)	長女 5歳	マンションにあるアヒルの乗り物に長女が乗り、	「おかあさん、ふーちゃんはやい?!」木の枝をムチに見立てて、アヒルのおしりをたたく	そこだ!いけ!差せ!ってコラ!!さすがわが娘、将来はジョッキーか?ご近所の目があるからね。ムチはやめなさいムチは。

勇姿を見せる(1)	三女 2歳	注射の記憶のせいか病院が嫌いな三女なのに、今回は自ら進んで参加し注射にも自ら腕をめくる。そんな勇姿に感動していたら、ふと三女が振り向いた。その表情を見ると、	……う…(今にも泣きそうな表情をする)	ブーッ泣きべそ ブブーっ やっぱこわいのか!!注射がこわいくせに戦闘態勢を作ってしまうとは…あっぱれな勇気です!!
着替え途中でおかしな姿になる(1)	三女 2歳	三女がばんざいした状態で両袖を持ってスポーンと脱がせたら、	頭にシャツをかぶっている	ぶっ「白いたらこ」になった。シャツを途中まで脱ぐとこうなります。
大きさに言う(1)	三女 2歳	三女がお気に入りのシールをずっと人さし指にくっつけていた。そのシールがジャマになったらしくお父さんに渡そうとしたときのせりふを聞いてみたら、	「重い」	父「え!」 おっ…重くねーだろ!!!! とにかく大ききな三女なのでした。
「いいよ」と言っても許していない(1)	三女 3歳	次女が窓をちょっと動かしたら窓と網戸の間に三女の指がはさまってしまった。次女が三女に謝ったら、三女が「いいよ!!」と言ってくれたので、母が「イタイのイタイの〜どこにとぼそうか」と三女に聞いたら	びしっと次女を指差す	即決 次女にとんでけ。 ちっともよくねえわけだ。ああ、びっくり。
できていないのに「できた」と言う(1)	三女 3歳	三女の髪の毛の洗い方。シャンプーを手にとって髪に塗った後に「できた」と言いほり、そのあと「チーが自分でジャーする!(流す)」というのでその様子を見てみると、	おけにお湯を入れて、後頭部にお湯がかかる×2した後に「できた」	ポカーン かっぱっぱ〜 るんぱっぱ〜…っておい!もっと上手に洗えるように練習してくださいね。

姉妹の「おかしな言動」(=ボケ)で最も多かったのは、「おかしな言葉を話す」で、抽出数は75であった。例えば、長女(7歳)が「おぼろ月」を「みずいぼ」と言ったり(表2)、次女(3歳)が「シルバニアファミリー」を「しんべに」と発音したがゆえに父が理解不能に苦しんだり、三女(2歳)がズボンを持ってきて「あけて」と言ったり、三女(2歳)が夕飯に出た「ホッケ」を「金魚」と言ったりするといった姿である。母はそれらに、「なぜ!」「何を!」などと「ツッコミ」を入れていた。

次に多かったのは、「ごっこの世界に生きている」で、抽出数は56であった。具体的には、「アニメのキャラクターになりきっているため、変な言葉づかい(「なんだわよ?」)になる」「アニメのキャラクターになりきるが、せりふ、必殺技を勘違いして覚えている」「ごっこ遊びのストーリーがおかしい」「ストーリーを好き勝手に決めて大人を翻弄する」「おかしな見立てをする(にんじん⇒携帯電話)」「ごっこ遊びの中のせりふで大人を翻弄する(「おいしそうだわ」も演技だった)」「やっていることがおかしい(「はい、あーん」と人形の口に注射器を入れる)」「わけのわからない言葉で英語版ごっこ遊びをする」「衣装がおかしい」「ごっこ遊びのはずなのに、人形にい

きなり本物の食べ物をあげる」「母のツッコミをスルーして自分の世界に入る」といった姿が抽出された。表2には、次女(3歳)がお兄ちゃん役をやっているとき、きまってピンチを迎える長女(6歳)が「お兄ちゃん助けて」と助けを求めるが、次女は即座に「死んだぜ」と返すといった姿を示した。母はこれに「お兄ちゃんはおきらめが早い」と冷静な「ツッコミ」を入れている。

次に多かったのが、「思いもよらない発想・発言で母を驚かす」で、抽出数は51であった。例えば、その日の給食の献立を聞かれた長女が、「牛乳と〜ご飯と〜魚と〜おぼん!」と答えるのを聞いて、母を「ズコ」と倒れ、「食べれないから」と「ツッコミ」を入れる場面などである(表2)。また、図鑑でカマキリの卵からたくさんの子どもが生まれることを学んだ長女(7歳)が「これが合体して大きくなるのかな?」とつぶやき、母が「ちょ…超合体ロボか!!」と「ツッコミ」を入れる場面もあった。

次に多かったのが「親の期待・推測を裏切る」で、抽出数は39であった。例えば、「すっごーくおいしかった!!」とお弁当セットを出す三女(4歳)に感動した母が「どれが一番おいしかった?」と聞くと、三女が「みかん」と答える、といった場面である(表2)。母はがっかりして、

「和歌山の農家の人に言え」と「ツッコミ」を入れてる。

次に多かったのが、「解釈が間違っている」で、抽出数は30であった。例えば、両手をおろしたままりレーの練習をしていた長女が、「もっと手をふって!!」という母の声を聞いて、バイバイのように手を振るといった姿である(表2)。母は「愛想ふりまいてどうするとですかー!!」と「ツッコミ」を入れている。また、初めておやつにドラ焼きが出たのを見た次女(5歳)が「人間が食べてもいいんだ」と言う姿である。母は「どんな認識?ドラ焼きはドラえもんの食べ物というわけではありません。覚えておいてください次女」と「ツッコミ」を入れている。

その他、「何にもおかまいなく、自由気ままにふるまう」「父や母、姉のまねをするがうまくいかない」「頭の中がメルヘン」「勝手に命名する」「怯える」「自分の欲求を貫こうとする強靱さをもつ」「やり方が間違っている」「真剣だが的をはずしている」「ありえないファッションを好む」「食べることへの執念がすさまじい」「自信たっぷりに歌を間違えて覚えている」「大事なところで適当」「正論を述べるが、述べるタイミングが間違っている」「片方に集中すると、もう片方を失敗する」「絶対ありえないことを願う」をはじめ、様々な姿が抽出された。それらはいずれも、幼児にごく自然に見られるものであった。

漫画『うちの3姉妹』は、以上本研究で抽出してきた読者を笑わせる「ボケ」「ツッコミ」場面が大半を占めているが、時折、松本ぶりつつが、「バカ親ですよ、ええ」などと書きながら、我が子への切ないほどの愛情を素直に語っている箇所もある⁷⁾。それは例えば、次のような場面である。

次女の幼稚園の行事に行ったとき、母が幼稚園に来ることを次女はそれはそれは喜んでいたら、始まって5分くらいしかたっていない頃から、「もうお母さん帰るの」と母が帰ってしまうことを心配し始めた。あつというまに行事が終わり、母が帰る頃にはもう目は涙でうるうるになっていた。母親にくっついて大泣きする子がいる中、次女はつないでいた手をふりはらって列に並んだが、その後ろ姿は一生懸命涙をふいていた。松本ぶりつつはここで、「キミはどうしてそんなにが

んばっちゃうの。泣きたいならお母さんのとこで泣けばいいのに。一度もこっちをふり向かない次女の背中を見てたらこっちまで泣きそうになってしまった(←バカ親ですよ、ええ)」と母の心の声を告白し、泣きながら帰宅する母、そして2時間後に家で幸せな再会を果たす(おバカな)親子の姿を描いている⁸⁾。

こうして時折松本ぶりつつが描く、わが子を切ないほどに愛する母の姿によって、日頃の冷静な「ツッコミ」も決して冷たい「ツッコミ」といった印象にはならず、むしろ、実のところは愛情にあふれた「ツッコミ」という印象をもたせるものとなっているのである。

IV. 総合考察

今回、本研究で抽出された「ボケ」・「ツッコミ」場面は518場面であった。松本ぶりつつによって描き出されていた子どもの姿は、通常では見られない特別なものでは決してなかった。むしろ、幼児であればごく自然に見られるばかりであった(表1)。そして、それら1つ1つに母、松本ぶりつつは冷静な「ツッコミ」を入れていた(表1、表2)。

これまで、親の子どもへの理想的なかわり方として考えられてきたのは、「子どもと同じ目線に立つ」、「子どもの世界に入り込み共感する」といったものであったかもしれない。しかし、松本ぶりつつの「ツッコミ」という子どもへのかかわり方は、それとは対極に位置する。子どもと同じ目線には立たず敢えて大人の目線で、子どもの世界にどっぷりつかることなくむしろ一歩下がって、客観的かつ冷静に子どもの言動を評価する。それが松本ぶりつつの「ツッコミ」である。そして、そうしたかわりこそが、子どもの言動にむきになったり、深刻に悩んだりすることなく、それらを笑い飛ばし、肩の力を抜いて子育てを楽しむむといった状態を生み出す鍵となっている。もちろん、その基盤には、子どもへのあふれる愛情がある。

本研究で明らかにしてきたのは、そうした松本ぶりつつの「ツッコミ」によって切り取られた子どもの姿であり、それらはたいへん多岐にわたっていたが、いずれも幼児にごく自然に見られるも

のであった。それらを共に笑い飛ばすことで、親達は肩の力を抜いて子育てを楽しむことができるようになるのだと思われる。

【註】

- 1) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第1巻(主婦の友社, 2006年) p. 128.
- 2) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第13巻(主婦の友社, 2010年) 出版社作成帯.
- 3) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第12巻(主婦の友社, 2010年) 出版社作成帯.
- 4) 人気プログラミング <http://blog.with2.net/rank/9031-0.html> 2010年9月22日取得.
- 5) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第1巻(主婦の友社, 2006年) p. 126-127.
- 6) アマゾン『うちの3姉妹』第1巻カスタマーレビュー http://www.amazon.co.jp/gp/product/4072516309/ref=s9_simh_gw_p14_d0_i1?pf_rd_m=AN1VRQENFRJN5&pf_rd_s=center-1&pf_rd_r=0S60WVZQ773821SW58QH&pf_rd_t=101&pf_rd_p=463376736&pf_rd_i=489986 2010年9月22日取得.
- 7) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第2巻(主婦の友社, 2006年) p. 66-67. 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第4巻(主婦の友社, 2007年) p. 82-84. 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第5巻(主婦の友社, 2007年) p. 50-51. 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第6巻(主婦の友社, 2008年) p. 102-104. 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第7巻(主婦の友社, 2008年) p. 91-94.
- 8) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第7巻(主婦の友社, 2008年) p. 91-94.

【引用文献(一次資料)】

- 1) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第1巻(主婦の友社, 2006年)
- 2) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第2巻(主婦の友社, 2006年)
- 3) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第3巻(主婦の友社, 2007年)
- 4) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第4巻(主婦の友社, 2007年)
- 5) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第5巻(主婦の

友社, 2007年)

- 6) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第6巻(主婦の友社, 2008年)
- 7) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第7巻(主婦の友社, 2008年)
- 8) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第8巻(主婦の友社, 2008年)
- 9) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第9巻(主婦の友社, 2009年)
- 10) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第10巻(主婦の友社, 2009年)
- 11) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第11巻(主婦の友社, 2010年)
- 12) 松本ぶりっつ『うちの3姉妹』第12巻(主婦の友社, 2010年)

【付記】

本論文は、平成22年度大学評価・学位授与機構提出論文に、加筆・修正を行ったものである。